

浅尾 悟 さんが出版

「鈴鹿市にも戦争があった～軍都・鈴鹿の全容～」 新発掘「陸軍石薬師射撃場」 秘匿飛行場掩体の配置図 など収録

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の会員で、元中学校教諭の浅尾 悟 さん(64)が「鈴鹿市にも戦争があった ～軍都・鈴鹿の全容～」を出版しました。A4判 98ページ。市域のざっと1割を占めた旧軍施設を、測量図面、写真などふんだんに使って詳述しています。中でも陸軍石薬師射撃場は開発をまぬがれて残っていることが分かり、新たに見つかった戦争遺跡として収録されました。特攻用にできた鈴鹿陸軍飛行場の81基以上の掩体も、詳細な調査結果と配置図を載せています。

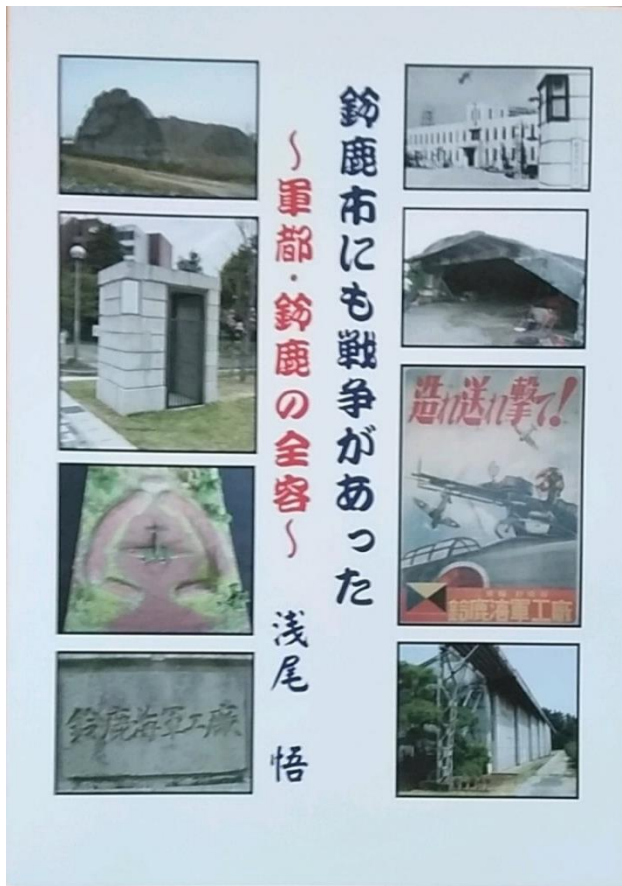
本は「『軍都・鈴鹿』の誕生」「鈴鹿市の軍関連施設」「戦時下の市民生活」「戦後の鈴鹿市」の4章から成ります。鈴鹿市の戦争遺跡のまとまった書籍としては、「鈴鹿市のあゆみ」(2002年鈴鹿市発行)、「三重の戦争遺跡」(2006年三重県歴史教育者協議会編)、「鈴鹿市の戦争遺跡」(2015年鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会発行)がありますが、今度の本は、それらの中間違った記述や不十分な内容を修正・補足するとともに、その後の研究成果を追加しています。

その目玉ともいえるものが、陸軍第一気象連隊から1500mほど西、鈴鹿市石薬師町西谷にあった「陸軍石薬師射撃場」。この射撃場の存在は当時の陸軍関係文書や戦後の関係書籍には明記されておらず、戦後撮影された米軍航空写真の分析からその存在が知られ、浅尾さんらが測量調査するとともに、地元の人から聞き取りするなどして、その存在が分かりました。遺構はほぼ完全に残っており、「市内の戦争遺跡としては、きわめて貴重」と記しています。

銃座は「コ」の字状のコンクリート製。横1.95m、縦3.15mで5m間隔に計8基ありました。銃座からの的までは北へ300m。



陸軍石薬師射撃場のコンクリート製の銃座(左下)
指さす方向に的が(鈴鹿市石薬師町西谷)



的の高さは 7.8m, 下幅 56.5m, 上幅 81.5m。
「コ」の字状になっており, 西側壁は約 40m, 東側壁は約 60m。谷の地形をうまく利用していました。当時を知る人からの聞き取りでは, 気象連隊の兵がトラックに乗り, ここにやってきて射撃訓練をして帰ったといひます。

1943 (昭和 18) 年, 本土決戦に備えた特攻用の飛行場として鈴鹿郡深伊沢村, 椿村, 久間田村, 三重郡水沢村 (現在の水沢野田町) にかけて陸軍が建設した鈴鹿陸軍飛行場 (椿秘匿飛行場) の掩体についても詳細な調査結果を載せています。掩体は十字の滑走路につながる周辺の道路沿いに 81 基以上あり, 位置図とともに, 14 基の掩体の測量図と現存掩体の一覧も載せています。

2 町 12 村が合併して鈴鹿市が誕生しましたが, 発足時の旧町村の面積と人口を表にしています。それぞれの軍事施設は, できた経緯, 建物の規模, 陣容などが詳しく記されています。鈴鹿市内の空襲, 銃後の市民生活, 戦時下の学校など詳述, 戦後,

旧軍施設がどう転用され, 現在どういう施設になっているか全体像がつかめます。

浅尾さんは中学校の社会科教員に採用されてから近世や古代史を中心に地域史を掘り起こし, 教材にしてきましたが, 1984 年に参加した教育研究全国集会で近現代史と平和教育の重要性に目覚め, 鈴鹿市の戦史や戦争遺跡の調査を進めることになったそうです。浅尾さんは本の前書き「はじめに」でこう記しています。

戦争は決して歴史教科書の中での遠い存在ではなく, 「鈴鹿市にも戦争があった」ことを若い世代に現場と言葉, 紙面によって伝えることは私にとって永遠のテーマになった。戦争の悲惨さは書籍や写真, 映像などの資料では十分でなく, 身近な戦争遺跡にふれることでより真実に近づき, 戦争の追体験になろう。・・・戦後生まれの私にとって戦争体験者の事実や思いを直接聞き取り, それを精査して, 戦争を知らない世代に正しく伝える橋渡しをしていくことが真の平和教育だと考えている。この書籍が平和教育に少しでも役立つことを願う。



浅尾 悟 さん

《本の申し込み》

「鈴鹿にも戦争があった～軍都・鈴鹿の全容～」をお求めになる方は、郵便局の振り込み用紙で「00850-8-92276」の口座番号（加入者名・鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する会）を記し、1870円（本代1500円・送料370円）を振り込んでください。同用紙に住所、名前、電話番号を明記してください。市民の会から郵送させていただきます。問い合わせは竹内（携帯電話090-2772-1476）まで。



「浅尾 悟 先生 出版記念」講演会 日時：12月8日(日) 13:30～ 場所：神戸コミュニティセンター 主催：鈴鹿市郷土史研究会

鈴鹿市郷土史研究会は12月8日(日)午後1時半から、神戸コミュニティセンター（鈴鹿市神戸9-24-52）で「浅尾 悟 先生 出版記念」講演会を開く。演題は「戦争末期の諸様相 ～鈴鹿の軍施設を中心に～」です。会員でない方も聴講でき、その場で著書「鈴鹿市にも戦争があった～軍都・鈴鹿の全容」も販売する。



鈴鹿ハンター「風の街の文化祭」でも販売

「市民の会」は10月20日午前10時から、鈴鹿ハンター センターコートで開かれる「風の街の文化祭」に参加して戦争遺跡のパネル展示など行う。そこで「鈴鹿市にも戦争があった～軍都・鈴鹿の全容～」を販売する。

満蒙開拓の歴史を語り継ぐために 長野県阿智村にある

満蒙開拓平和記念館

を見学してきました！ 2019.06.29



(仮称) 平和ミュージアムを鈴鹿市に開設することが、私たちの大きな目的のひとつです。そのために数年前から年に1回、先進的なミュージアムを見学してきました。2017年に滋賀県にある「平和祈念館」を、2018年は愛知県の「ピース愛知」と「見晴台考古資料館」を訪れました。そして3回目になる今年6月29日(土)に、長野県下伊那郡阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」へ見学に行きました。ここは、旧満州(中国東北部)に入植した満蒙開拓団の苦難の歴史を

伝え、平和の尊さを次世代に語り継ぐために設立された満州移民史を扱う日本で唯一の民間施設です。今年もまた 岩脇 彰 先生に解説をお願いし、13名の参加者が2台の車に分乗し、鈴鹿市を出発しました。時おり小雨が降る中、2時間余りで記念館に到着すると、すぐにセミナールームに案内され、事務局長の 三沢 亜紀 さんから、記念館の理念や概要を伺いました。その後、「満蒙開拓の真実」というDVDの映像を20分鑑賞しました。展示室に移動し、スタッフの 松尾 達二 さんに丁寧に分かりやすい説明をしていただきました。旧満州(中国東北部)に13年間だけ存在した幻の国「満州国」に日本からおよそ27万人の農業移民である「満蒙開拓団」が、夢を抱いて渡っていききました。ところが、1945年8月9日のソ連侵攻で満州は戦場と化します。開拓団の人たちは広野を逃げ惑い、終戦後も日本に帰国することができないまま、難民収容所で多くの方が飢えと寒さで亡くなりました。日本と中国、両国に多くの犠牲者を出した「満蒙開拓団」とはいったい何だったのでしょか？ 見学に訪れる人の心に深く訴える展示内容と解説でした。

記念館を後にして、車窓からのどかな阿智村の風景を楽しみながら数分の場所に、次の目的地である「長岳寺」がありました。記念館の展示室でも紹介されていた 山本 慈昭 さんが、前住職だったお寺です。山本さんは残留孤児の肉親捜しに尽力し、およそ270人の孤児たちと肉親の再開を実現された人で、「中国残留孤児の父」と称されています。長岳寺は 武田 信玄 終焉の地としても知られていますが、山門をくぐった境内に入ると、真っ赤な鐘楼の中に映画「望郷の鐘 -満蒙開拓団の落日-」にもなった鐘があり、山本さんの銅像や石碑も沙羅双樹の木の横にひっそりと建立されていました。

この日、阿智村に滞在した時間は短いものでしたが、その見学内容はとても充実したもので、中身の濃い一日になりました。



(参考資料) 三重県の満蒙開拓団と青少年義勇隊

満蒙開拓団は、中国東北部の植民地支配と、国内農村の貧困対策を兼ねた「分村移民」です。三重から分村したのは双龍開拓団と裕徳開拓団で、ハルピンから 80km の所にありました。荻原村（現・大台町）を中心に今の大台町・大紀町・度会町・紀北町から 1,342 人が移住しました。個人で別の開拓団に入った方を含め、三重からの移住者は約 2,000 人で、敗戦後の悲劇で帰国できたのは 866 人でした。

青少年義勇隊は、海軍の予科練などと同じ「少年兵」です。学校の先生等に勧誘・説得された子どもが、小学校高等科を卒業してすぐに茨城県などの訓練施設を経て、16~19 才で中国東北部の「義勇軍開拓団」に送られました。三重県から送られた約 1,000 人のうち、約 240 人が亡くなっています。

どちらに参加された方のお話を聞いても「開拓団と言っても、もう畑や家はあった。中国の人の土地や家だった」「国にだまされた」という思いは共通します。

大台町の三瀬谷ダム近くに、義勇隊と開拓団の犠牲者を弔う「拓魂碑」と簡単な資料室が造られています。毎年、桜の季節に伊勢の日中友好団体の方が慰霊祭をされていますが、資料室の老朽化が大きな課題になっています。

第 6 回 戦争遺跡 親子見学会 開催！



7月27日(土)に開催予定の戦争遺跡親子見学会は、台風6号の余波を受けて8月12日(祝・月)に順延して開催いたしました。再募集して、参加者が集まるだろうかと心配していましたが、ほぼ当初参加予定者の皆さんが都合をつけてくださり、津市の90歳の男性から8歳の子どもまで、30名の参加者で実施いたしました。

今回の見学会には、鈴鹿海軍航空隊の格納庫部材を保管していただいている森田 英治 さん宅（安塚町）の倉庫を見学コースに組み入れました。海軍の錨のマークが入った小さな鍵を着けた倉庫の扉、同じく錨が描かれた水道栓の蓋、鋼材と鋼材を巨大なリベットで接合した各所の部材などから、当時の巨大倉庫の威容と技術力の高さを感じ取ることができました。

次に訪れた平野町は、鈴鹿海軍工廠の敷地内にあっても、終戦後に進出した大型工場群の周辺部にあたることから、今もなお戦争遺跡が点々と残っている貴重な区域にあたります。なかでも、レンガ色に塗られ、ひと際目立つ2階建アパートは火管圧填場の施設で、今回は大屋さんの許可を得て部屋内に立ち入ることができました。このアパートには入居者はおらず、いつかは壊され更地となる可能性もあり、その行く末が心配されるとこ

ろです。周辺にも2棟のレンガ造りの火薬庫が物置に転用されながらひっそりと残っています。当時、その火薬を詰めて使用されたと言われる機銃弾に直接触れて子どもたちは大変感動していたようでした。その後、住吉町の機銃弾の試射が行われたドーム状の厚いコンクリ施設（着弾場跡）の説明を受け見学会は終了いたしました。



炎天のなか、何組かの親子のグループもありましたが、良い夏休みの宿題ができたでしょうか。

最後に、部材保管倉庫を快く開けていただいた 森田 さん、子どもたちにも分かり易く説明いただいた講師の 岩脇 先生 にお礼申し上げます。

なお、当日参加者の中から、見学会への感想が寄せられました。ここに掲載させていただきます。

☆ 戦争は、こわいなと思った。話はわかりやすかったです。
今日は、ありがとうございました。

飯野小学校 4年 女子

★ 海軍の遺跡を見学させて頂きました。わかりやすい解説があったので理解が深まりました。来年も(陸軍の方)の見学に参加したいと思っています。ありがとうございました。 50代 男性

☆ よく通っている道の近くに戦争遺跡がたくさんあったことにおどろきました。詳しく話を聞かせていただき、戦争は二度とおこってほしくないとあらためて強く感じました。実際に目で見て感じとれる事がたくさんあるので戦争遺跡は残して欲しいと思いました。今日はありがとうございました。 40代 女性

★ 本日は暑い中ありがとうございました。様々な戦争遺跡を案内していただいたのはとても興味深く本当に貴重な経験でした。こんなにも身近に戦争の名残があるのですね。鈴鹿に住んで14年になりますが、鈴鹿に多くの戦争遺跡がある事を今まで知らずに過ごしておりました。我が家と、そして子どもたちが通っている旭が丘小学校も鈴鹿海軍航空隊の跡地に建っているという事も、今回初めて知った事でした。格納庫の部材、海軍工廠跡、発射場など戦争遺跡を実際に自分の目で見る事で、戦争の恐ろしさを感じました。これら全て人を殺す目的の為に作られたと考えるとゾッとします。子どもたちの未来に、戦争が繰り返されないよう考えていかなければならないと思い、また平和の大切さを改めて考える日となりました。ありがとうございました。 女性

☆ 初めて、このような見学会があるのを知り、参加させていただきました。鈴鹿に生まれ育っていても、海軍航空隊があったと知ったのは大人になってからでした。丁寧な説明と、貴重な資料見学を通して、自分の暮らす町への関心が高まりました。また機会があれば、参加したいです。 40代 女性

★ お話はむずかしかった。むずかしいことがいっぱいあったので、家で少ししらべたりした。今年の自由研究のテーマに選んで勉強しました。また機会があれば参加してみたい。

桜島小学校 4年 女子

「平和への祈り展」で 戦争遺跡写真パネルを展示

鈴鹿市主催の「2019 平和への祈り展 ～戦中・戦後の暮らし～」が8月2～4日、イオンモール鈴鹿のイオンホールで開催されました。私たち「市民の会」も市民実行委員会の一員として参加。「鈴鹿にも戦争があった」と戦争遺跡の写真パネルを展示しました。来場者は3日間で1,102人。展示を見ながらお孫さんに戦時中の話をされる方、自分の家の近くに軍隊関係の建物がこれほど残っているのかとびっくりされる方、当時の写真を見ながら懐かしいと戦中の貴重な話をされる方など、充実した祈り展でした。

市制77周年記念 戦争遺跡資料展と講演会 - 鈴鹿海軍航空隊格納庫部材見学 -

毎年、市制記念日を前後とし開催しています「戦争遺跡資料展と講演会」を今年は、部材を保管していただいております 森田 英治 さん宅の倉庫をお借りして開催いたします。

- ◆ 予定日時 令和元年11月30日（土）
 - ① 公開時間 午前10時～午後4時まで
 - ② 講演会 午後2時～3時
 - ・講師 岩脇 彰 先生（亀山市立亀山南小学校教諭・会員）
 - ・演題 （仮）鈴鹿海軍航空隊と格納庫部材

- ◆ 会場 鈴鹿市安塚町771-1 （阿自賀神社から東へ約1*）
農家食堂「わがや」隣り倉庫

- ◆ その他
 - ① 講演会への定員を先着順30名といたします。（無料）
 - ② 当日、市民の会の会員が誘導いたしますので決まった場所への駐車をお願いいたします。
 - ③ 個人宅をお借りして開きますので、食堂等への支障がないようにご協力をお願いいたします。

- ◆ 後援 鈴鹿市教育委員会（予定）

- ◆ 問い合わせ 市民の会 竹内 ☎ 090-2772-1476
農家食堂 わがや 森田 ☎ 090-1092-2288

第3回 桜の森公園 春まつり 来年 3月28日 開催

「第3回 桜の森公園 春まつり ～広がれ平和の輪～」は来年3月28日(土)に開催します。9月25日に開いた第1回実行委員会で決めました。雨天の場合は29日(日)に順延。第2回と同様、講演とモニュメント見学、ライブ、空に舞う遊び、飲食屋台村を柱に、楽しく意義ある祭りにしたいと思います。

ホームページをリニューアルしました！

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」のホームページがリニューアルされ、2019年4月27日に更新されました。一度ご覧になってください。アドレスは

<https://suzukasensoiseki.jimdofree.com/>

です。会のあゆみや今までの会報もダウンロードできます。ご利用ください。



▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△

発行

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表

竹内 宏行・中森 成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47

電話 059-388-6508

Mail ta818hi@mecha.ne.jp

△▼△▼△▼▼△▼△▼△▼△▼△